

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 20日から22日は、日本の東の低気圧は北東へ進む。前線を伴った低気圧が西日本から東日本付近を東へ進む。
- 23日から24日は、高気圧が北日本付近から日本の東へと移動する。前線が西日本から東日本付近にのびる。前線上を低気圧が進む可能性がある。

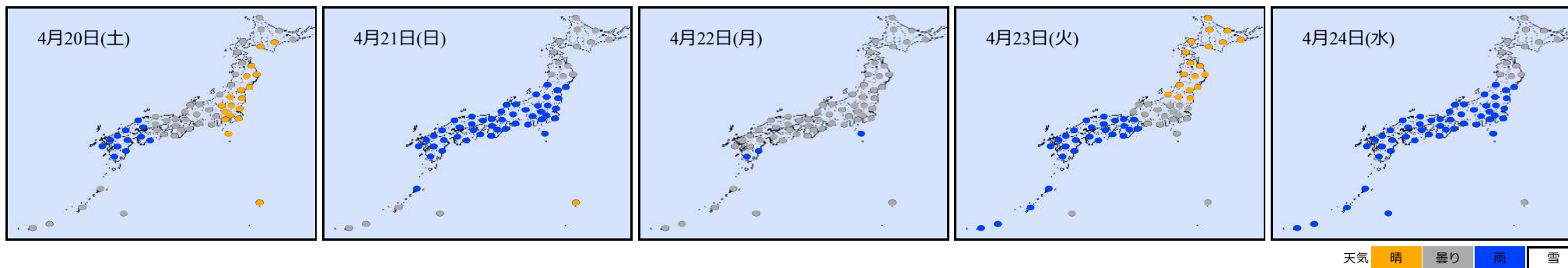
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 期間の前半は気温が平年より高い所が多い。積雪の多い所ではなだれ等に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

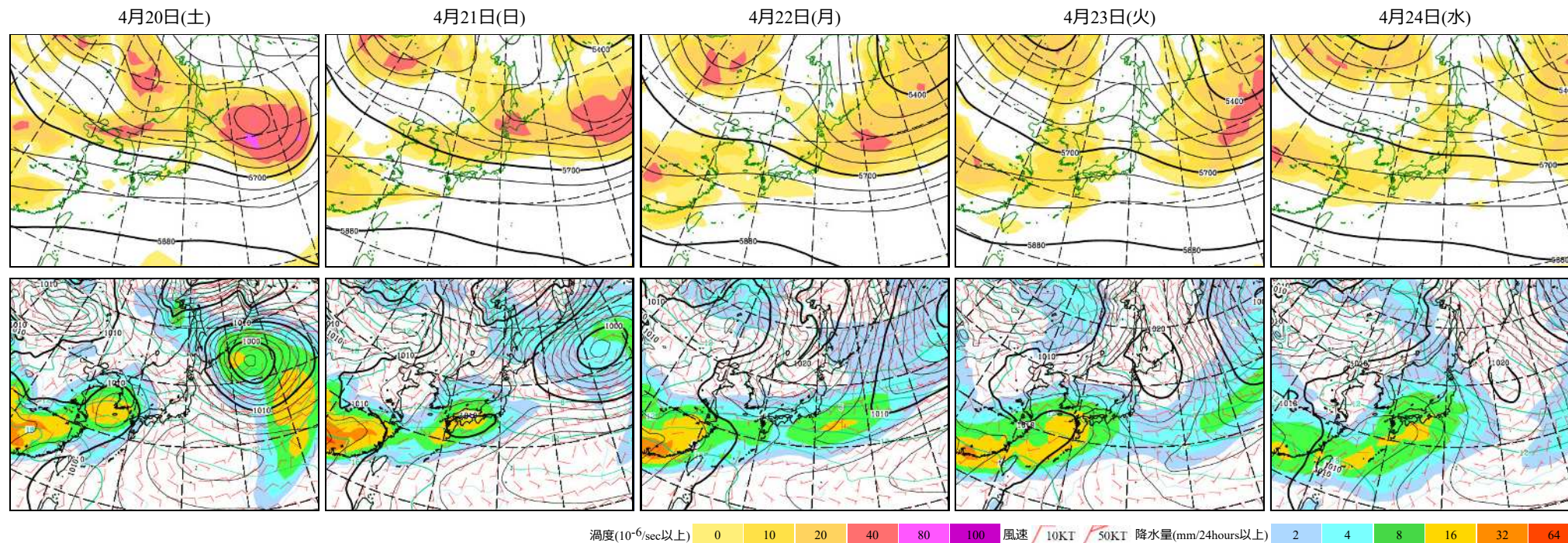
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

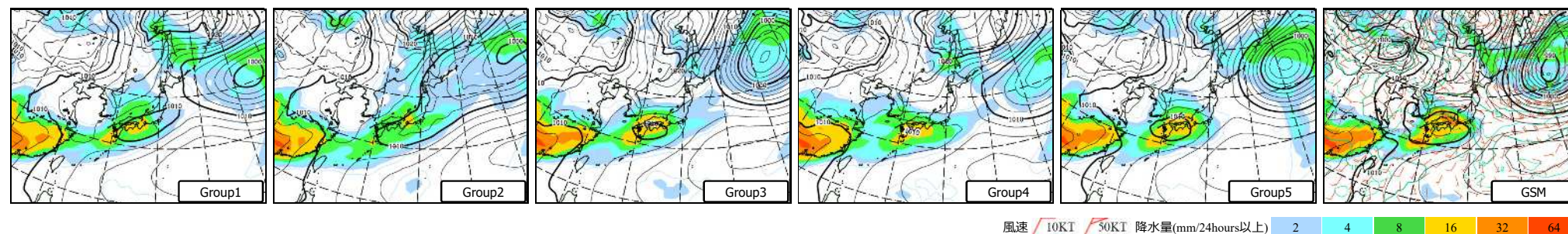


- 北日本は、曇りまたは晴れの日が多いが、21日と24日は雨の降る所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすく、21日と24日は雨が降る。
- 西日本は、曇りで雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、23日から24日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月21日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、21日頃に日本付近に進むトラフは深めとなった。期間の終わりに日本付近に進むリッジの東進が早めとなり、23日は西日本付近に昨日予想よりも早く前線がかかる予想となった。
- 21日から22日に日本付近を進むトラフは、各モデルで初期値変わりがみられる。各モデルとも日本の南岸付近を低気圧が進む予想だが、低気圧の発達は弱めに初期値変わりがしている。日本海に低気圧を予想するモデルもあるが、日本海の低気圧は不明瞭になってきている。
- 期間の終わりは、各モデルとも西日本・東日本付近にのびる前線や前線上の低気圧を予想しているが、前線や低気圧の位置、東進の速さにばらつきがある。アンサンブルメンバーの予想もばらついているため、ENSの低気圧は不明瞭になっている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に作成する。